学校番号	３１２

令和３年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高校　倫理　新訂版　（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「思想・哲学は難しい」と思われがちですが、日常考えないことを考えてみることも大事です。先人の思想や生き方を学ぶことによって、より広い視野を持てると思います。自ら考え、自分の言葉で表現することを学びましょう。

２　学習の到達目標

過去の思想・哲学や宗教について学び、「いかに生きるべきか」という課題について考える。また青年期の課題や人間の心理について学び、現代社会の特質についても考察する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲をもつ。これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け，人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて先人の思想、生き方を学び、考える。広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し，考察する。追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を，自己確立の課題と理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。
評価方法	授業態度 定期テスト	定期テスト レポート 発表	レポート ノート 発表	定期テスト レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期前半		第１編　現代に生きる自己の課題 1　人間とは何か ①人間の特質 ②人生における青年期 ③適応と個性の形成 2 青年期の課題と自己形成 ①青年期の意義 ②自己の理解にむけて 第２編　人間としての自覚と生き方 1 人生における哲学 ①神話から哲学へ ②ソフィスト ③ソクラテス	○	○	○	○	a:関心・意欲・態度 人間や青年期について関心を持ち、自己の問題として考察できる。 b:思考・判断・表現 青年期の問題について理解し、考察したことを表現できる。 c:技能　ノートのとり方やレポートのまとめ方をみにつける。 d:知識・理解 古代ギリシアの哲学について知識を深め、ソクラテスの生き方に学ぶ。	定期テスト レポート ノート
1学期後半		④プラトン ⑤アリストテレス ⑥ヘレニズムの思想 2 人生における宗教 ①ユダヤ教 ②イエスの思想 ③キリスト教の展開		○	○		a:哲学や宗教について、基本的知識を身につけ、現代における意義を考える。 b:人間の生き方や宗教について深く考える。 c:ノート、レポートの実践 d:古代ギリシア、ヘレニズムの哲学、ユダヤ教、キリスト教の基本知識を学ぶ。	定期テスト レポート ノート
2学期前半		④イスラム教 ⑤バラモン教 ⑥仏陀の思想 ⑦仏教のその後の展開 3 人生の知恵 ①孔子の教え ②孟子と荀子の思想 ③道家の思想			○	○	a:宗教、中国の思想について、理解を広め、比較考察する態度を養う。 b:宗教について理解を深め、人間の生き方について思考する c:ノート、レポートの実践 d:キリスト教やイスラム教、仏教について比較し、基本的知識を得る。	定期テスト レポート ノート

2学期後半		第3編現代社会と倫理 1現代に生きる人間の倫理 ① 人間の尊厳 ② 自然や科学技術と人間とのかかわり ③ 民主社会における人間のあり方 ④ 自己実現と幸福	○	○	○	○	a:現代の諸問題を考える上で、倫理や科学について関心をもつ。 b:社会や道徳について考察し、自己の行き方を考える。 c:ノート、レポート d:西洋哲学、社会思想を理解し、現代との関わりを考察する。	定期テスト レポート ノート
3学期		⑤ 個人と社会のかかわり	○				a:社会に関心を持ち、個人のあり方を考える。 b:社会的な問題を考え、現代人が直面している問題を考察する。 c:ノート、レポート d:社会主義、実存主義について理解を深める。	レポート

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。